



(1) 課程制 (工学部)

学生は各課程での学修に軸足を置きながら、卒業に必要な124単位のうち12単位は他コースの授業を受けて取得することができる。12単位の取得方法は以下の3パターンがある。①パラエティー型：各コースの分野科目群（専門科目をテーマごとに19科目群にグルーピング）の中から自由に履修。②副コース取得型：特定の分野別科目群について10単位の授業履修と2単位の研究室活動（学内研究留学）を行って「副コース」認定を受ける。③自コース完結型：他コース科目を履修せず自コースの学びに集中する。

(2) 女子高校生対象サマー・インターンシップ

女子生徒が研究室に配属され、担当教員や大学生、大学院生とともにテーマ設定から研究、発表まで行う。24年は9校から90人が参加した。

(3) 理工系女子特別入学者選抜

理工学分野に強い関心と学ぶ意欲を持ち、高校時代の数学と理科の成績、英語資格（CEFR）が一定以上の女子生徒が応募できる。工学部の先進国際課程を除く全学部・学科・コースで実施され、募集枠は各学科・コースで2～4人。

(4) 理工系女性技術者支援奨学金

「理工系女子特別入学者選抜」による入学者全員と、一般入学者選抜で成績優秀な女子入学者（100人以上）を対象に入学相当額（28万円）が支給される。

(5) 国際プログラム

入学後に申請し、審議を経て国際プログラム生として認められる（定員は各学科定員の1割）。1セメスター以上の海外留学が必須で、卒業に必要な単位の4分の1以上を英語開講科目で取得し、卒業研究を英語で行う。

(6) 先進国際課程

授業はすべて英語で開講され、入学時から指導教員と異なる専門分野から集結した多国籍のアドバイザー教員の指導のもと、最先端の研究に取り組む。研究成果は卒業までに1回以上、国際会議で発表することを目指している。

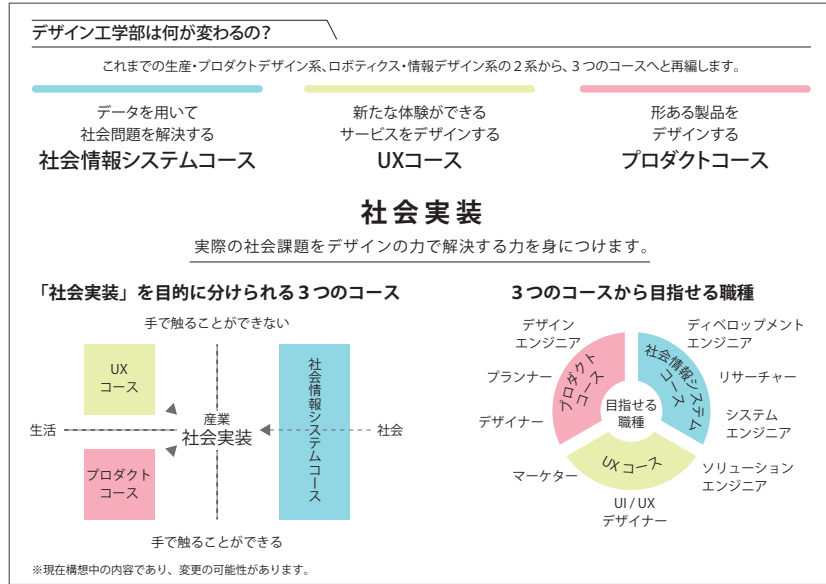
(7) 朝日に輝く奨学金

一般入学者選抜において優秀な成績を収めた者のうち、一都六県以外のからの入学者について、1人あたり年間110万円を最大4年間給付する。優秀な人材が経済的理由により首都圏への進学を諦めることなく、実質国立大学並みの授業料負担で学修できるよう、本奨学金制度を整備するに至った。



多様な視点からイノベーション創出を目指す

2025年度にスタートする新しいデザイン工学部が目指すこと



をよりよくしていくためには、まずその分母を増やすことが重要です。そのためにも女子学生の比率を増やし、ロールモデルとなる卒業生を輩出することが喫緊の課題だといえます。同大では、「女子向けミニオーブンキャンパス」の開催や、女子高校生対象サマー・インターンシップ^②など、在学生や卒業生の話を聞くことができます。また、入試では「理工系女子特別入学者選抜^③」を実施し、22年度に導入された「理工系女性技術者支援奨学金^④」と合わせて、女子の進路選択を応援しています。

さらには、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業をはじめとするグローバル化への積極的な取り組みも芝浦工業大学の長です。27年度に向けて学生の海外経験率を100%にするという目標を掲げており、東アジアやヨーロッパ、ブラジルなど海外からの留学生も増加傾向にあります。

「英語」の独自試験を廃止 実力を最大限発揮できる入試に

25年度の一般入学者選抜から、「英語」の独自試験が廃止されます。代わりに、英検のCSEや大学入学共通テストなどの外部試験を用いて、大学独自の基準に応じて得点換算化または出願資格とします。これは、英語を後回しにしてよいということではなく、高校3年間で積み上げた英語の力を外部試験のスコアで測る

ことにより、受験生の実力を公正に判定しようというものです。また、24年度に課程制となった工学部の学びに合わせた「工学部総合型選抜」が新たに導入されるなど、推薦型や総合型選抜にも力を入れていきます。さらに、地方から芝浦工業大学に入学を目指す高校生を応援する「朝日に輝く奨学金^⑤」や学生寮の拡充にも力を入れ、首都圏大学の「ローカル化」を防ぎ、より多様で多彩な人材が集う場にしようとしています。こうした学生獲得への姿勢について、山田純学長は語ります。

「本学では『イノベーションはダイバーシティーの中から生まれる』を合言葉に、女性活躍の視点も含めて、理工系に進む人材を増やすことは工業大学が果たすべき社会的使命だと考えています。さまざまな大学改革を通じて、2027年の創立100周年へ、そして次の100年に向かって新しい工学教育のあり方を作っていく。時代に寄り添い、時代を先取りして変わって行く大学でありたいと思っています」



やま だじゅん
山田純学長
1982年東京工業大学工学部生産機械工学科卒業。88年同大学院院理工学研究科博士課程中退。専門は熟工学、光工学。東京工業大学工学部助手、山梨大学工学部助教、ケンタッキー大学客員准教授、芝浦工業大学教授、同大学工学部長などを経て2021年より現職。

1927年創立の芝浦工業大学は、建学の精神である「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」のもと、戦中・戦後の混乱期から日本の理工学教育を先導し、数多の優秀な技術者を輩出してきました。常に変化し続ける社会と向き合い、技術によって未来を担う人を創る教育は、産業界からも高く評価されています。

私立理工系大学として唯一の「スーパーグローバル大学創生支援」にも選定され、創立100周年を迎える2027年にアジアの工科大トップ10に入ることを目標に掲げています。また、24年度の工学部の課程制への移行に続き、25年度にはデザイン工学部が3コース制へとリニューアル。26年度にはシステム理工学部の課程制移行も予定されており、次なる100年に向けた大学改革が進められています。

芝浦工業大学

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5 入試部入試課 TEL 03-5859-7100 <https://www.shibaura-it.ac.jp/>

100周年に向けた大学改革を推進。社会や地域に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材を育成

次なる100年に向け、新たに2学部がリニューアル

芝浦工業大学は、創立者である有元史郎が1927年5月に開いた「東京高等工商学校」を前身としています。有元が自身の論文「非科学的教育の提唱」に記した「特色ある専門教育を施し、以て実社会に貢献せんとする」という、実学主義の宣言は、建学の精神「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」として受け継がれています。

開学から約1世紀、2027年に迎える100周年に向けて、さまざまな改革が進められています。24年度には工学部が従来の学科制から課程制への移行。9学科を5課程9コースに再編し、分野横断型の学びを促すカリキュラムへと生まれ変わりました。続いて25年度には、「デザイン工学部が3コース制へとリニューアル。2つの系を拡充・再編し、「社会情報システム」「UX」「プロダクト」の3コースが誕生します。さらに、26年度には、システム理工学部が課程制へと移行予定（設置

構想中）。現状の5学科6コースを5課程11コースに再編します。確かな専門性と、分野を越えた学びの融合が新たな社会を創る

デザイン工学部では、当たり前を疑い、気づきを得るための「デザイン思考」と、プログラミングやデータサイエンスなどの確かな「デジタル技術」を磨き、多様な人々との「協創」によって新たな価値を創り、社会実装する力を養います。デジタル・情報技術の必要性が高まる現代において、それらを生かして人々の暮らしや社会をよりよくするための仕組みやモノ、サービスなどを生み出せる人材を育成します。

授業では、コースの垣根を越えて他のコースと協働する科目を多く配置。学生だけでなく、多くの教員が1つの科目に関わることで、幅広い視点や技術に触れることができます。また、同学部の学生が愛知県・蒲郡市に1年間滞在して地元企業と地域創生プロジェクトに取り組んだり、香川大学と連携した現地滞在型の課題解決プログラムに多くの学生が参加したり、学外の多様な人々との協創を通じた学びも展開されています。システム理工学部は、専門科目に加えて「キャリアデザイン」「SDGs」「システム工学」「アントレプレナーシップ」をキーワードとした「学際科目」を26年度に新たに設置。大学で何を学び、どう生かすのかを見極めるための学修計画を学生一人

ひとりが作成し、分野を越えた学びを体験します。また、「モジュール制」の導入も新たな取り組みです。「主専攻」「副専攻」「留学」「教育」の4つのカテゴリから自分の目的や興味に合わせた学びを自由に組み合わせることもできます。1つの専門だけでなく、他分野の学びに触れることで自らの可能性を広げ、社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成します。



2022年4月竣工の豊洲キャンパス本部棟 撮影 藤井浩司/TOREAL